

グローバルセキュリティ ～今そこにある危機への対策

事前登録制

アフリカでのエボラ出血熱の間歇的な発生、それに呼応したようなニパウイルス病の発生など、感染症の分野においては、従来からの解決されない薬剤耐性の問題等の問題に加えて、新たな問題が山積されてきております。

今年はインフルエンザでも、ワクチンの大幅な不足と、有効性の低下があり、その流行は近年に無い規模となっております。日本から消えて久しかった麻疹も侵入しており、感染症の流行は近年に見ない程度に重大な問題となっております。

加えて、化血研の事業譲渡の問題が加わり、日本の感染症対策は予断を許さない状況になってきております。また、国際的な政策が国際感染症に影響を与える事例も出てきているように思います。

本ミニシンポジウムでは、これらの問題をグローバル規模の視点で多角的に検討し、その対策を模索してみたいと思います。参加は無料で、どなたでも事前登録していただければ、ご参加いただけます。

日時：平成30年7月27日（金）10:00～12:00（開場9:30）

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 北館会議室2

＜プログラム＞

1. 日本におけるワクチンの課題 横手公幸
2. 国際感染症における迅速高感度診断の重要性

安田二朗（長崎大学熱帯医学研究所）

3. 国際感染症に対する国際協力の必要性

～橋本イニシアティブ10年記念シンポジウムをふりかえって（鼎談）

前平由紀

天野由美

宮田善之（慶應義塾大学）

＜総合討論＞

コーディネーター 青木節子（慶應義塾大学）

*プログラムは変更される場合がございます。

参加申込みはこちらから：<http://www.kgri.keio.ac.jp/news-event/044790.html>

【問合せ先】プロジェクト事務局 宮田善之 yomiyat@keio.jp